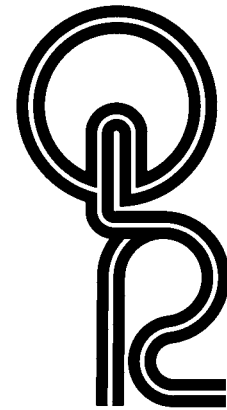


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 28 No.1, 2021



2020年オンライン大会で開催された2019年学会賞・学術賞受賞記念講演と普及講演でご講演頂いた、奥野 充会員（左上：学術賞受賞記念講演）、長橋良隆会員（右上：学術賞受賞記念講演）、岡田 誠会員（下：普及講演）のスナップショット。

Vol. 28 No. 1

February 1, 2021

2021年大会案内（第3報）..... 2	会員マイページでの会員情報公開可否 選択のお願い..... 6
JpGU2021年大会案内（第2報）..... 2	役員選挙予定案内 7
2020年オンライン大会報告 3	学会賞・論文賞候補者等推薦募集（再 掲）..... 8
オンライン大会普及講演報告..... 4	執行部会議事録..... 10
2019年学術賞受賞記念講演報告 .. 4	会員消息.....11
2020年オンライン大会若手学生発表 賞受賞者報告 6	第四紀通信単独郵送のお知らせ..... 12

◆日本第四紀学会 2021年大会案内（第3報）

日本第四紀学会 2021年大会は、下記の日程で開催予定です。

開催期間：2021年8月27日（金）～8月30日（月）

開催場所：大阪市立大学杉本キャンパス 全学共通教育棟／田中記念館
大阪市立自然史博物館 講堂

* プログラム構成などの都合により会場変更の可能性があります。

日 程：8月27日（金）一般研究発表（口頭およびポスター）・評議員会
8月28日（土）一般研究発表（口頭およびポスター）・総会・各賞授賞式・懇親会
8月29日（日）シンポジウム・一般向け講演会（実施方法やテーマについて検討中）
8月30日（月）巡検：玄武洞をはじめとする山陰海岸地域を予定

* 新型コロナウイルス感染症の蔓延状態によっては予定を変更することがあります。

* 発表の申込方法などにつきましては次号以降の第四紀通信に掲載いたします。

◆日本地球惑星科学連合 2021年大会のお知らせ（第2報）

日本地球惑星科学連合 2021年大会 - JpGU2021 は、オンライン開催+現地開催のハイブリッド開催で行われます。現地開催は、2021年5月30日（日）～6月1日（火）に「パシフィコ横浜ノース」（神奈川県）で行われ、ポスター発表メイン、そのほかに特別口頭講演、イベント等からなります。オンライン開催は、2021年6月3日（木）～6月6日（日）に行われ、口頭発表、ポスター発表、およびイベント等からなります。現地開催は縮小もしくは中止となる可能性があります。その場合の現地開催口頭講演は日程・プログラムはそのまま、オンライン発表に移行することになります。

発表投稿受付は、2021年1月13日（水）～2月18日（木）まで行われております。日本第四紀学会では、「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」を単独で、「活断層と古地震」を共同提案で主催します。また、その他の第四紀学と関係する多数のセッションに共同提案母体となっております。下記に主な関連セッションを挙げておきますので、発表登録をどうぞよろしくお願い致します。

予稿投稿締切：2021年2月18日（木）17:00（早期締切：2月4日（木）23:59）

H-QR04：第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス（J、会場：ch16）

口頭：6月5日（土）AM1、AM2 ポスター：6月5日（土）PM3

S-SS10：活断層と古地震（J、会場：ch21）

口頭：6月3日（木）PM2、6月4日（金）AM1、AM2 ポスター：6月4日（金）PM3

U-13：Advanced understanding of Quaternary and Anthropocene hydroclimate changes in East Asia（E、会場：ch01）

口頭：6月5日（土）AM1 ポスター：6月5日（土）PM3

A-HW22：流域生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸まで（E、会場：ch12）

口頭：6月4日（金）AM1、AM2、PM1 ポスター：6月4日（金）PM3

H-DS08：人間環境と災害リスク（J、会場：ch15）

口頭：6月6日（日）PM1、PM2 ポスター：6月6日（日）PM3

M-ZZ45：湿地の価値とラムサール条約・ジオパーク・国立公園における管理（J、会場：ch16）

口頭：6月3日（木）PM1 ポスター：6月3日（木）PM3

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-19:00

◆日本第四紀学会 2020年オンライン大会開催報告

藤原 治（行事委員長・大会実行事務局長）

2020年12月26日（土）・27日（日）に、日本第四紀学会2020年大会および関連行事が開催されました。今年の大会は、当初は8月末に大阪で開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染対策のため、時期を延期し、さらにオンラインでの開催となりました。

大会の開催方法については2020年前半から検討を進め、新型コロナウイルスの終息を期待しつつ、時期を年末にずらしての対面、あるいは対面とオンラインのハイブリッド型での開催も視野に入れていました。開催の方法や時期について会員へのアンケートも参考にしつつ、最終的にこの日程でのオンライン開催となりました。ロジスティックスを業者に依頼する方向で準備を進めていましたが、予定していた業者の都合で契約できなくなったため、執行部会を中心に自前で実施することになりました。そのため、試行的に会員、非会員ともに参加費は無料、講演要旨も無料のPDF版のみとしました。

オンライン大会の準備のため、執行部会を中心とし、さらに庶務委員会と行事委員会から選出されたメンバーを加え「オンライン担当」を設けました。このメンバーによって短期間に多くのことを議論・解決し、オンライン大会を実現できました。参加や発表の登録も初めてのオンライン登録となりましたが、約280名の事前登録がありました。

一般研究発表は2日間で19件の口頭発表と11件のポスター発表が行われました。会員・非会員を合わせた参加者は初日が193名、2日目が171名でした。全参加者は218名、うち会員は154名でした。発表中は常時100名を超える参加者がありました。口頭発表はZoomを用いました。ポスター発表は、ポスターの展示はDropboxで行い、コアタイムの議論にはZoomのブレイクアウトルームを使用しました。これにより、発表者と参加者が質疑応答を交わして内容の理解を深められるようにしました。発表がスムーズに行えるか心配でしたが、オンラインでの学会や会議が社会的に広まっていることもあり、大きなトラブルもなく、ほぼ時間通りに大会を進行することが

できました。

27日には2019年学会賞・学術賞受賞記念講演と、普及講演を開催しました。受賞記念講演は長橋良隆会員、奥野 充会員によるものです。受賞記念講演会は2020年2月に都内での開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて延期となっていました。

普及講演は、2020年に地学界で大きな話題となったチバニアン採択について、その申請グループのリーダーであった岡田 誠会員にお話しをいただきました。この普及講演は2020年大阪大会で行う予定でしたが、採択された年のうちにお話しをいただきたいと思い、本オンライン大会での実施となりました。チバニアン申請メンバーは2020年日本第四紀学会功労賞を受賞されており、その受賞記念講演という意味もあります。

本大会の記憶に残る良かった点としては、通常大会に勝るとも劣らない人数の参加があったことが第一に挙げられます。その理由はいろいろ考えられますが、自宅や職場から参加できるので移動にかかる時間・労力・コストが軽減できることがまず挙げられるでしょう。聞きたい発表だけ選んで参加することもでき、参加者にはさらに効率よく大会に参加できたとも思います。オンラインでの学会開催は、今後も増えていくように思われます。一方で、発表内容に対する議論の深まり方や、本学会の特徴である異分野（他分野）の交流に関しては、やはり対面での開催にはかなわない気もしました。

反省点としては、オンラインでの学会開催が不慣れなこともあり、何時までに何をどうするのか、実行委員会の決定と情報提供が遅かったことは否めません。これは発表数の少なさに表れているように思われます。

今後の大会の開催方法としては、オンライン開催と対面での開催の双方の利点を考慮する必要があります。この辺りは大会後に頂いたアンケートの結果も参考にしながら検討していきたいです。また、大会を運営する側の労力を如何に少なくすることも重要な検討課題です。

◆日本第四紀学会 2020 年大会普及講演報告

寺口慧介（日本工営株式会社）

2020年12月26～27日に、日本第四紀学会2020年オンライン大会が開催された。本大会は新型コロナウイルス感染症の拡大により学会として初めてのオンライン大会であったが、280名の参加登録、常時100名以上の参加があり大きなトラブルもなく盛況のうちに終わった。12月27日の普及講演は、齋藤会長からのご紹介に続いて、岡田 誠会員（茨城大学）からの「第四紀の新地質年代名「チバニアン」の承認とその意義」のご講演が行われた。2020年1月にGSSPに承認された際はニュースや紙面でチバニアンが大きく取り上げられたが、その多くは地質年代名がチバニアンと命名されたことのみが注目され、「そもそもGSSPとはなにか?」、「日本がGSSPに選ばれた意味とは?」まで理解していた人は少なかったのではなかろうか。そういった意味合いからも普及講演として相応しいタイトルであった。

講演内容は、チバニアン承認までの経緯を振り返るものであった。講演前半では、GSSPの概要およびGSSPになるために必要な条件やデータ、前期-中期更新世境界の特徴など基礎知識を交えたお話をいただいた。特に、新生代におけるGSSPがすべて地中海沿岸諸国に分布する中で、今回の承認で日本にGSSPが設置されたことは極めて異例な出来事だったというお話は非常に印象深かった。

講演後半では、ライバルであったイタリアの2つの候補地と千葉セクションの概要説明に始まり、2013年から各候補地が競い合いながらデータを揃えていった様子を時系列に沿ってお話しいただいた。GSSPに承認されるために必要な古地磁気、海洋化石、花粉など複数のデータの精度向上だけでなく、さらに ^{10}Be を用いた古地磁気の推定といった最新技術を取り入れるなど、他の候補地に抜きつ抜かれつのスピード感を持った研究をしていた臨場感が伝わった。GSSP申請時には千葉セクションに関するすべてのデータが精度よく揃ったとのことだが、計35名23機関という大所帯の申請チームが一丸となって、様々な視点から研究を重ねた結果である。「チバニアン」の承認は日本の第四紀研究の集大成が勝ち得たものと感じさせる講演であった。

講演の最後に岡田会員より、「チバニアン」承認をきっかけにより多くの人に「地学」に興味を持っていただき、自然災害に対してより良い対応ができる日本になれば、とのお言葉があった。世間を沸かせた「チバニアン」承認の快挙はまさに大きなきっかけを作ったことは間違いない。小生も地学がよりメジャーな学問となるよう、一学会員として第四紀学を活かした社会貢献を心がけていきたい。

◆日本第四紀学会 2019 年学術賞受賞記念講演報告

西澤文勝（神奈川県立生命の星・地球博物館）

2020年12月27日の日本第四紀学会2020年オンライン大会にて、2019年学術賞受賞者である、長橋良隆会員（福島大学）と奥野 充会員（福岡大学）の2名の受賞記念講演が行われた。両会員とも、学士から博士までの学生時代の研究テーマに触れつつの講演であり、お二人の研究者としての足跡を辿るような臨場感とともに、これまでの研究活動の変遷についても垣間見ることができた。

長橋会員は「化学分析に基づくテフラの岩石学的特徴と広域対比・編年の研究」と題し、湖底堆積物のテフラ層序と対比について、火山ガラスの化学組成分析と層序学的手法を連携させ、両者を丁寧に適用することの重要性とその成果を紹介された。地域的に追跡可能な火山灰層として述べ

られた高野層コアと野尻湖層コアのスコリア質火山灰については、微細な結晶を含む火山ガラス粒子の化学組成の分析を慎重に実施しつつも、顕微鏡を用いて粒子の形状や組織に着目することが対比の鍵であることを説明された。網羅的に取得され充実した火山ガラス化学組成データがある一方で、印象的だったのは、「火山ガラスの化学組成はテフラ対比や給源火山を検討するための一つの目安である」という事実を強調されたことだ。より精緻な層序対比のためには、火山ガラスの化学組成を層序学的に検討すること、風成テフラ層の層序と分布の研究が必要とのことだった。多角的な根拠から精緻なテフラ層序対比を導き出していく過程には、給源火山から山麓、遠隔地の堆積盆まで、

多様な環境でテフラを追跡し、研究を重ねてこられた長橋会員の経験が反映されているように感じた。

奥野会員は、「火山活動史と古環境・考古編年に関する放射性炭素年代学的研究」と題し、日本のみならず世界各地の調査地において、放射性炭素年代学的に明らかにされた噴火史の数々をご紹介された。同手法を適用し、層序に沿った年代値を得るための基本事項として、テフラによって被覆された直下の土壌層からの試料採取に言及された。修士論文で直下の土壌層の年代値がまとまりよく得られたことの手応えについて回想されていたが、閉鎖系が成立した土壌層から良質な炭素試料が得られれば高精度な噴火年代の決定が行えるという事実は、今後も第四紀における強力な編年手法である。また、噴火履歴復元には、火山地形の分類を詳細に行い、噴出物の前後関係を明らかにして

いくことが重要であることも併せて述べられた。修士課程で在籍された金沢大学での経験も奥野会員の重要なバックグラウンドとなっていることが窺えた。

両受賞会員の講演に共通していたのは、手法の限界を専門家として正しく把握し、適用範囲を拡張しつつも、それに固執することなく、多角的に真実に迫ろうとする視点であったように思う。それには、数々の観察・分析結果に基づいて確信的な事実を得てきた両会員の経験があってこそだと感じる。私のような駆け出しの研究者やあるいは初学者こそ、今後の研究を貫く考え方の一つが、今取り組んでいる研究活動から得られることを忘れずに、粘り強く経験を積み重ねていくことが大切だと感じた。

◆日本第四紀学会 2019年学術賞受賞記念講演報告

佐藤善輝（産業技術総合研究所）

2020年12月27日、2019年日本第四紀学会学術賞の受賞記念講演が催され、長橋良隆会員（福島大学）と奥野 充会員（福岡大学）による講演が行われた。本講演は、当初、同年2月29日に帝京平成大学中野キャンパスにおいて行われる予定であったが、コロナ禍の影響により延期となっていた。2020年大会とともに初めてのオンラインでの開催となったものの、130名を越える聴講者が参加して受賞者の声に耳を傾けた。

長橋会員は「化学分析に基づくテフラの岩石学的特徴と広域対比・編年の研究」と題し、琵琶湖や野尻湖、猪苗代湖、高野層といった日本各地の湖底堆積物中に挟まる火山灰層の特徴と対比について、美しい火山灰試料の顕微鏡写真なども交えながらご講演された。詳細な火山灰層の認定と300点を優に超える膨大な分析結果は、高い時間分解能と良好な保存状態という湖底堆積物の利点を最大限に生かすものであり、長橋会員の誠実なお人柄をよく表していた。また、歴代の分析装置について愛おしそうに話される様子は、分析結果の信頼性の何よりの証左であるように思われた。広域テフラだけでなく、スコリア質火山灰などの地域的なテフラの対比や、石質火山灰の分析による噴出過程解明の試みについても紹介され、湖底堆積物を用いた研究のさらなる可能性を示された。最後には「大規模噴火史を過去500万年間切れ目なく見通したい」という長橋会員の壮大で刺激的

な夢が語られた。

奥野会員は「火山活動史と古環境・考古編年に関する放射性炭素年代学的研究」と題し、卒業研究以降に取り組みられたご自身の研究について幅広く講演された。卒業研究では開聞岳をフィールドとし、古文書なども活用しながら火山活動史の解明に取り組みられた。卒業後には種子島で中学校教員をしながらテフラ研究を行い、その成果をまとめた最初の論文（奥野・小林1994）が第四紀研究に掲載されたという本学会との縁についても紹介された。修士課程では那須岳、高原山、乗鞍岳などの水蒸気噴火を対象とし、その過程で火山噴出物に埋もれた土壌の年代測定の有効性を認識したそうである。同様の手法は、北海道駒ヶ岳、八甲田山、焼岳などでも用いられ、各地の火山活動史解明に活用されている。博士課程以降には始良、鬼界、阿多といった南九州のカルデラ火山の噴火史解明に取り組みられた。奥野会員はご自身のスタイルを「落ち着きなくバタバタ動く」と表現されていたが、国内各地の火山にとどまらず、バリ島、鬱陵島、アリューシャン列島、クック諸島など海外にも広く目を向ける精力的な姿勢には感嘆する他ない。

学術の世界には「科学者は巨人の肩の上に立つ矮人である」という言葉がある。この言葉には知見を連綿と積み重ねていくことの重要性が示されている。過去から連綿と続くという意味において、

科学史は“湖底堆積物”と似ているのかもしれない。長橋会員と奥野会員の功績は、第四紀学の学史において間違いなく“鍵層”として位置づけられよう。お二人はまだまだ夢を語る活火山であり、これか

らも幾重にも“鍵層”を作り出すかもしれないが、本講演を拝聴し、我々若手も一粒の粒子でも第四紀学の歴史に貢献していきたいと改めて感じた次第である。

◆ 2020 年オンライン大会若手・学生発表賞受賞者

2020 年オンライン大会において若手・学生発表賞にエントリーされた発表の中から、若手学生発表賞選考委員会（中島 礼委員長、山崎晴雄委員、中里裕臣委員、森 勇一委員、北田奈緒子委員）による選考結果とその後の執行部会での承認により、下記の方々の受賞が決まりました。

■ 口頭若手部門：1 名（選考対象 4 件）

受賞者：久保田好美 会員（科博）

タイトル：前期－中期更新世境界における北西太平洋の海洋環境変動

発表者：久保田好美（科博）・羽田裕貴（産総研）・亀尾浩司（千葉大）・板木拓也（産総研）・林 広樹（島根大）・ヘッド マーティン（ブロック大）・菅沼悠介（極地研）・岡田 誠（茨城大）

■ 口頭学生部門：1 名（選考対象 1 件）

受賞者：太田耕輔 会員（東京大・院）

タイトル：富士五湖における表層水中溶存無機炭素の放射性炭素年代の月毎変動と地下水の炭素リザーバー効果

発表者：太田耕輔（東京大）・横山祐典（東京大）・宮入陽介（東京大）・山本真也（富士山科学研）

■ ポスター若手部門：1 名（選考対象 3 件）

受賞者：杉中佑輔 会員（RCCM）

タイトル：五霞～猿島～筑波台地周辺における埋没地形基底面の土砂供給河川の検討

発表者：杉中佑輔（RCCM）・石綿しげ子・野口真利江（パレオラボ）・須貝俊彦（東京大）・遠藤邦彦（日本大）

■ ポスター学生部門：1 名（選考対象 2 件）

受賞者：酒井恵祐 会員（神戸大・院）

タイトル：最終退氷期以降の北西太平洋における底生有孔虫の OMZ 変動に対する生物応答

発表者：酒井恵祐（神戸大）・大串健一（神戸大）・芝原暁彦（福井県立大）

◆ 会員マイページでの会員情報の公開・非公開選択のお願い

会員名簿を冊子で出版することに代わり、会員の公開情報を web 上の「会員マイページ」にて会員に限定で公開することが、2020 年度総会にて承認されました。現在、会員情報公開システムを構築中ですが、2021 年 2 月初めをめどに、皆さんがどの情報を公開するか、公開しないかを「会員マイページ」内で自ら選択できるようにする予定です。

公開情報としては、2017 年発行の会員名簿に掲載されている項目を参考に決めましたが、公開必須項目としては、会員の氏名（漢字、カナ、英語表記）、会員区分（一般の正会員、学生・院生会費の正会員、名誉会員、賛助会員の区別）、所属領域（領域 1～領域 5）とし、一方、公開しない項目は会員番号、生年月日、性別です。公開するか公開しないかを選択する項目は、所属機関（および部署）名とその所在地、

電話番号、FAX 番号、所属先のメールアドレス、自宅の住所、電話番号、FAX 番号、個人のメールアドレスといったものです。そのほかに、会員入会年度も公開か非公開かの選択項目に加えました。

会員ご自身の情報は、現在「会員マイページ」内の「会員情報更新」欄にあります。その中で公開する項目、公開しない項目にチェックを入れるあるいはチェックを外すことで選択をしていただくことになります。初期設定の段階では、公開必須項目以外はすべて非公開（公開しない）にします。

同時に、会員の公開情報を、「会員マイページ」内の「会員名簿検索（仮）」欄から閲覧できるようにします。知りたい会員名を入力すれば、その会員の公開情報が閲覧できますし、検索機能を使って、たとえば特定の領域名を入力すれば、その領域に所属する会員名の一覧が表示されます。公開情報に限定されませんが、特定の都道府県に勤務あるいは住んでいる会員や特定の機関に所属している会員の一覧を見ることが可能となります。なお、公開情報はセキュリティ上、PDF などの形でダウンロードすることはできないようにします。

上記機能が追加される会員マイページは、スマートフォンにも対応いたします。まずは、「会員マイページ」に入ってご自身の情報の公開・非公開の選択をしていただきますよう、お願いします。日本第四紀学会ホームページ (<http://quaternary.jp>) トップにある「会員マイページ」ボタンをクリックし、会員番号（会費請求書あるいは会誌・会報が入った封筒の会員宛名の下に書かれている 10 桁の数字）とパスワードを入力し、ログインしてください。パスワードをお忘れの方は、会員マイページの「パスワードをお忘れの方へ」をクリックして、会員番号と登録している電子メールアドレスを入力して送信すると、登録しているメールアドレスにパスワード変更用のアドレスが送られてきます。

不明な点は、日本第四紀学会事務局までお問い合わせください。

(庶務委員会)

◆ 2021-2022 年度役員選挙の予定

2 年に 1 度、役員（会長・副会長・評議員）の選挙が実施されます。2021-2022 年度（2021 年 8 月 1 日～2023 年 7 月 31 日）の役員を決める選挙の会告（選挙方法、定数、立候補・推薦候補の受付期間、投票期間などの連絡）は 2021 年 3 月上旬、選挙は 4 月中旬から 5 月上旬ころを予定しています。また、投票方法は前回と同様に「会員マイページ」から web 上での投票となります。

執行部会や領域を中心とする新しい運営体制に移行して、2 期 4 年目の後半に入っています。会則第 11 条第 3 項では次期の役員になれない条件が示されていて、それに該当する会員数は前 2 回の選挙時に比べ多くなっています。また、評議員への立候補・推薦候補者数は前々回に比べ前は減少し、その影響は投票率の低下や白票数の増加に現れていると思われる。さらに、評議員選挙は立候補・推薦候補者を含め、被選挙権を持つ全正会員を対象に行われるため、当選しても辞退される会員が増えてきています。これらの理由から、次期役員への立候補・推薦候補者がより多く出ていただくことを期待します。今からご検討をお願いいたします。

(庶務委員会・選挙管理委員会)

<参考資料 1：役員候補者になれない条件・該当者>

会則第 11 条第 3 項（及び役員選挙規程第 15 条*）に基づき、次期役員選挙の候補者になれない正会員は以下の通りです。

2 期会長を務めた者（会長候補者になれない）：齋藤文紀 会員

2 期副会長を務めた者（副会長候補者になれない）：

奥村晃史 会員、齋藤文紀 会員、鈴木毅彦 会員、竹村恵二 会員

6 期連続評議員となっている者（評議員候補者になれない）：

出穂雅実 会員、奥村晃史 会員、里口保文 会員、須貝俊彦 会員、竹村恵二 会員、横山祐典 会員
会長経験者*（評議員候補者になれない）：齋藤文紀 会員

なお、評議員選挙とは別ですが、会則第 11 条第 3 項に基づき、現在 2 期連続執行部会員（領域代表あるいは常設委員会委員長）となっている会員は次期執行部会員（領域代表あるいは常設委員会委員長）に就くことができません。具体的には以下の方々です。

北村晃寿 会員、小荒井 衛 会員、藤原 治 会員

さらに、役員選挙規程第 15 条によると、2021 年 2 月 1 日時点で、2020 年度会費を納めていない正会員は、いずれの役員に対しても選挙権も被選挙権もありません。また名誉会員・賛助会員には選挙権・被選挙権がありません。

<参考資料 2：役員 of 活動内容>

1. 会長（1 名）

日本第四紀学会を代表し、会務を総括します。また、学会賞選考委員長を務めます。

2. 副会長（2 名）

会長を補佐し、会長に事故などやむを得ない事情が発生した時には、その職務を代行します。また、執行部会の議長となり、常設委員会、各領域、関連する外部組織との調整を担当します。

3. 評議員（各領域に所属する正会員数によって決まり、今回は各領域 6～11 名で計 41 名）

評議員会において本会の運営に関する案件を審議決定します。評議員の中から、各領域の代表、庶務・会計・編集・行事・広報・渉外の各常設委員会委員長が選ばれ、執行部会員として活動します。その他の評議員は、評議員会議長・議長代理、論文賞選考委員長、名誉会員候補者選考委員長などを担当します。また選出された領域の幹事として領域代表を補佐します。

◆ 2021 年「日本第四紀学会学会賞」等の推薦のお願い（再掲）

「日本第四紀学会会則」の第 3 条（3）に基づき、2021 年日本第四紀学会学会賞（以下、学会賞）、日本第四紀学会学術賞（学術賞）、日本第四紀学会若手学術賞（若手学術賞）並びに日本第四紀学会論文賞（論文賞）、日本第四紀学会奨励賞（奨励賞）の受賞候補者の推薦募集を行います。前 3 賞は学会賞選考委員会が会員からの推薦をもとに受賞候補者を選考し、後 2 賞は論文賞選考委員会が会員からの推薦を参考に受賞候補者を選考します。最終的に 2021 年 6 月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2021 年大会で表彰される予定です。会員のみならず多数のご推薦をお待ちしております。

なお、推薦にあたっては、学会 HP の「会則・規則」のページ (<http://quaternary.jp/intro/rules/rules.html>) に掲載されている「日本第四紀学会顕彰規程」及び関連する内規をご参照の上、下記に従って推薦書類をお送りください。また、過去に受賞した会員は、論文賞を除き同じ賞を受賞することはできませんので、学会 HP の「歴史」のページ (<http://quaternary.jp/intro/gakkaisho.html>) で歴代受賞者を事前にご確認頂きますようお願い致します。

1. 各賞の概要と推薦書類の記入内容

■ 学会賞・学術賞

学会賞と学術賞は、第四紀学の発展に寄与する研究や学会活動への貢献を行ってきた会員に贈られる賞です。

学会賞：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

学術賞：第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著書（研究グループ等を含む）によりなされた場合には、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

下記の情報を記した推薦書類を作成して、主要業績リストと併せて日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。

(1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）

- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 学会賞の場合には、具体的な業績や活動内容を示した受賞件名
学術賞の場合には、授賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

■若手学術賞

若手学術賞は国際誌等における研究発表を通して第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた若手会員（2021年4月1日時点で39歳以下の会員）に授与されるものです。受賞者数は若干名で、受賞対象は過去2年間の国際誌等に掲載された論文（オンライン化された論文を含む）の筆頭著者とします。受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

下記の情報を記した推薦書類を作成し、推薦する論文のPDFとともに学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 推薦論文題目、論文が掲載された雑誌名および出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日及びDOI
- (5) 推薦理由（800字以内）

■論文賞・奨励賞

論文賞と奨励賞は、過去2年間に刊行された「第四紀研究」（第58巻第1号～第59巻第6号）に掲載された論文と著者が対象となります。

論文賞：会員である論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。対象は掲載された全ての論文（短報を含む）。

奨励賞：会員である筆頭著者に授与。年齢は2021年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。

受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

推薦書類には下記の情報を記し、学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 論文賞の場合には、全著者名と推薦論文名
- (4) 奨励賞の場合には、候補者名と推薦論文名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

2. 推薦書類の送付先

各賞の推薦書類は、郵送または電子メールで日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。送付先の住所ならびに送信先のメールアドレスは下記のとおりです。

郵送：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

メールアドレス：daiyonki (at) shunkosha.com (“(at)”の部分を“@”に変えて下さい)

郵送の場合の宛名は、学会賞・学術賞・若手学術賞の推薦書類については、「日本第四紀学会 学会賞選考委員会」宛、論文賞・奨励賞の推薦書類については「日本第四紀学会 論文賞選考委員会」宛として下さい。電子メールの場合には、上記のそれぞれの宛先名を電子メールの件名に入力して送信して下さい。なお、PDF等のファイルを電子メールで送る場合、その容量が大きい場合（10MB以上）には、ファイル転送サービスを利用して下さい。

3. 提出期限

推薦書類の提出期限は、いずれも2021年2月28日（日）です。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 5 回執行部会議事録

日 時：2020 年 12 月 2 日（水） 13:00～16:10
方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議
出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、
高原 光（副会長）、水野清秀（庶務）、
齋藤めぐみ（会計）、藤原 治（行事）、
北村晃寿（編集）、小荒井 衛（渉外）、
横山祐典（領域 1）、奥村晃史（領域 2）、
里口保文（領域 3）、小森次郎（領域 5）
オブザーバ：高橋尚志（庶務委員会）

主な報告事項

- (1) 第四紀研究第 60 巻第 1 号（論説 1 編）の印刷
工程中。11 月 26 日現在、受理済み原稿（書評を除く）
は 2 編（60 巻第 1・2 号に掲載）、手持ち原稿は論
説 5 編、短報 2 編、総説 1 編、資料 1 編、講座 2
編である。
- (2) 第四紀通信の ISSN は第四紀研究の付録とな
る前の 1341-724X を現在でも引き続き使っており、
28-1 号以降もそのまま使う。
- (3) 地球惑星科学連合学協会会長会議が 2020 年 12
月 2 日 11:00～12:00 にオンラインで開催され、
齋藤会長が出席した。2021 年大会の予定、連合フェ
ロー候補者の推薦、学術会議に関する報告などが
行われた。
- (4) JpGU2021 のセッション共催は主催の第四紀：
ヒトと環境系の時系列ダイナミクスのほか、活断
層と古地震、人間環境と災害リスク、湿地の価値
とラムサール条約・ジオパーク・国立公園におけ
る 管 理、Advanced understanding of Quaternary
and Anthropocene hydroclimate changes in East
Asia、流域生態系における物質移動と循環：源流
から沿岸まで、の 6 セッションとした。
- (5) ジオパークコンソーシアム設立を検討する会
合が 11 月 5 日に開かれ、本学会ほか 7 学会の会
員が参加した（本会から小森会員が出席）。現段
階でコンソーシアムへ参加を示した学会 3、学会
内で議論・保留 5（当学会含む）となった。
- (6) 2020 年オンライン大会の発表申し込みを締め

切った。発表数は口頭 19 件（うち若手学生発表
賞エントリー 5 件）、ポスター 11 件（うち若手学
生発表賞エントリー 5 件）。

主な審議事項

- (1) 2020 年オンライン大会の口頭発表セッション、
ポスター発表セッション、学術賞受賞記念講
演 2 件、普及講演 1 件のプログラムを確定した。
また、Zoom のホストをつくば（国立科学博物館
参集）と都立大学メンバー中心で行うことにした。
参加者・発表者のマニュアル案について議論した。
- (2) 防災学術連携体シンポジウム「東日本大震災
からの十年とこれから」の冊子原稿として、第四
紀研究に掲載された震災や災害・防災に関する論
文、特集号などを紹介することにした。
- (3) 第四紀研究の受理論文を J-STAGE の早期公開
オンラインシステムを用い、会員限定で公開する
ことにした。
- (4) 投稿規定の原稿の長さについて、総説 24 ペ
ージ以内、短報 8 ページ以内に増やし、編集委員
会が認めた場合は、他も含めてページ数を増やす
ことができる改訂案を、次の評議員会にて提案をす
ることにした。
- (5) 会員マイページでの会員情報公開に向けてシ
ステムを構築すること、第四紀学会ホームページ
からリンクして web 上で入会申し込みができるシ
ステム構築を進めることにした。
- (6) 筑波山地域ジオパーク推進協議会が行うシン
ポジウム「桜川低地の成り立ちと里山ジオツアー
の勧め」に後援することを決定した。
- (7) 2021-2022 年度役員選挙では、多くの役員候
補除外者ができることを知らせ、立候補・推薦候
補者を募ることを通信記事に載せることとした。ま
た、役員選挙規程の改訂を検討し、会長・副会長
が無投票当選した場合、評議員の被選挙権を失う
こと、領域の評議員数の算出方法の表現を修正す
ること、などを次の評議員会に提案することにし
た。

◆日本第四紀学会 2020 年度第 6 回執行部会議事録

日 時：2020 年 12 月 21 日（月） 13:00～15:30

方 法：Zoom システムを使ったオンライン会議

出席者：齋藤文紀（会長）、鈴木毅彦（副会長）、
水野清秀（庶務）、齋藤めぐみ（会計）、
藤原 治（行事）、北村晃寿（編集）、
白井正明（広報）、奥村晃史（領域 2）、
工藤雄一郎（領域 4）

オブザーバ：高橋尚志・久保田好美（庶務委員会）、
目代邦康（行事委員会）、永峯菜穂子（事
務局）・春恒社

主な審議事項

(1) 2020 オンライン大会の役割分担を確定し、発表・参加者のマニュアル案、アブストラクトやポスターの公開方法・日程、ポスターコアタイムでのブレイクアウトルームの設定、役割分担などの確認を行った。

(2) 若手学生発表賞の選考委員 5 名を決定した。

(3) 会費未納者が多いため、役員選挙の選挙権・被選挙権との関係から会員には 1 月中には納入を済ませることを知らせ、再度会費請求を行うことにした。

(4) ≪第 25 回「震災対策技術展」横浜≫の後援を決定した。

(5) 会員マイページでの会員情報公開システムと会員入会申し込みシステムのプレゼンを事務局のある春恒社の担当者に行ってもらい、改良点などを指摘して、システム構築を進めることにした。会員情報公開可否の選択を会員にしてもらう案内を次号通信に載せることとした。

(6) 2020 年度第 2 回評議員会を 2021 年 1 月 22 日午前オンライン会議として行うことを決定し、議事内容について確認を行った。

.....

★★★ 今号より第四紀通信 1、2、4、5号は、単独での郵送となります ★★★
今年から「第四紀研究」は年間4号(3月、6月、9月、12月)の発行になります。一方「第四紀通信」は今まで通り隔月発行しますので、第四紀通信1、2、4、5号は単独での郵送となります。第四紀通信3、6号は、これまで通り第四紀研究に同封してお届け予定です。

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、MLの積極的な使用をお願いします。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス(jaqua-koho(at)quaternary.jp)へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントのURLがある場合、そのURLも載せてください(ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルはMLに配信致しません。
- (2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会HPへの掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報(こちらはHPのみの掲載となります)等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。
- (3) 第四紀通信の表紙用の写真(または作成した画像)を受け付けています。詳細は第四紀通信27巻6号の巻末をご覧ください。
- (4) 第四紀通信は偶数月1日刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、奇数月下旬に版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：白井正明・オブラクタ スティーブン フィリップ・兵頭政幸・那須浩郎・植木岳雪
広報書記：岩本容子・奥村公弥子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFを閲覧できます。